

Title	組織のネットワーク形状がイノベーション創出に与える影響についての研究
Sub Title	A study of the impact of the shape of organizational networks on innovation activities
Author	岩尾, 俊兵(Iwao, Shumpei)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>この研究では、イノベーションそのものの立場から、イノベーションに必要な資源とアイデアの流れを管理するという「イノベーションそれ自体のマネジメント」についての準備作業をおこなった。そこでは、組織内外のネットワークを資源とアイデアが移動していくという仮定の下で、そのようなネットワーク形態であればどのようなイノベーションを創発するのかについて、コンピュータ・シミュレーションによる仮想実験がおこなわれた。ここでの研究成果は、本年度、『三田商学研究』掲載論文および『日本"式"経営の逆襲』（日本経済新聞出版）という単行本の形で発表した。これらの発表内容を要約すると、「資源とアイデアとがそれぞれ別の場所に滞留した場合にイノベーションが不活性化すること」、「滞留のマネジメントと在庫のマネジメントと本質的に同型である」こと、それゆえに「在庫のマネジメントを得意とする生産管理論の知見がイノベーションの活性化・不活性化のマネジメントに示唆を与えうること」を出発点にして、イノベーション創出に有効な社会・組織・制度を考えるというものであった。こうした仮想実験からは、資源とアイデアの渋滞の解消という視点から、梁山泊型、高信頼フィクサー型、リーンスタートアップ型、起業サークル型、科学者集団型、ムラ社会型などの制度が考えられ、それぞれ異なる特徴があることが判明した。さらに、こうした特徴の中には、小さなイノベーション（悪貨）が大きなイノベーション（良貨）を駆逐する「イノベーションのグレシャムの法則」や、世間知らずが大きなイノベーションに寄与する「井の中の蛙の効用」と表現できるような発見もあった。本研究が可能にしたこれらの発見は、『週刊エコノミスト』等の商業誌でも取り上げられた。</p> <p>In this study, I conducted preparatory work for the "management of innovation itself," which is to manage the flow of resources and ideas necessary for innovation from the standpoint of innovation itself. Under the assumption that resources and ideas move through networks inside and outside the organization, virtual experiments using computer simulations were conducted to see what kind of innovation would be generated in such a network form. The results of this research were published this year in a article in the Mita Business Review and a book titled "Nihon Shiki Keiei no Gyakusaku" (The Revenge of Japanese Style Management). To summarize the contents of these publications, I have found that "innovation becomes inactive when resources and ideas remain in different places," "the management of storage is essentially isomorphic to the management of inventory," and that therefore "the knowledge of production management theory, which specializes in the management of inventory, can provide suggestions for the management of innovation."</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210188

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	商学部	職名	専任講師	補助額	300 (A) 千円
	氏名	岩尾 俊兵	氏名 (英語)	Shumpei Iwao		
研究課題 (日本語)						
組織のネットワーク形状がイノベーション創出に与える影響についての研究						
研究課題 (英訳)						
A study of the impact of the shape of organizational networks on innovation activities						
1. 研究成果実績の概要						
<p>この研究では、イノベーションそのものの立場から、イノベーションに必要な資源とアイデアの流れを管理するという「イノベーションそれ自体のマネジメント」についての準備作業をおこなった。そこでは、組織内外のネットワークを資源とアイデアが移動していくという仮定の下で、そのようなネットワーク形態であればどのようなイノベーションを創発するのかについて、コンピュータ・シミュレーションによる仮想実験がおこなわれた。ここでの研究成果は、本年度、『三田商学研究』掲載論文および『日本“式”経営の逆襲』(日本経済新聞出版)という単行本の形で発表した。これらの発表内容を要約すると、「資源とアイデアとがそれぞれ別の場所に滞留した場合にイノベーションが不活性化すること」、「滞留のマネジメントと在庫のマネジメントと本質的に同型である」こと、それゆえに「在庫のマネジメントを得意とする生産管理論の知見がイノベーションの活性化・不活性化のマネジメントに示唆を与えること」を出発点にして、イノベーション創出に有効な社会・組織・制度を考えるというものであった。こうした仮想実験からは、資源とアイデアの渋滞の解消という視点から、梁山泊型、高信頼フィクサー型、リーンスタートアップ型、起業サークル型、科学者集団型、ムラ社会型などの制度が考えられ、それぞれ異なる特徴があることが判明した。さらに、こうした特徴の中には、小さなイノベーション(悪貨)が大きなイノベーション(良貨)を駆逐する「イノベーションのグレシャムの法則」や、世間知らずが大きなイノベーションに寄与する「井の中の蛙の効用」と表現できるような発見もあった。本研究が可能にしたこれらの発見は、『週刊エコノミスト』等の商業誌でも取り上げられた。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>In this study, I conducted preparatory work for the “management of innovation itself,” which is to manage the flow of resources and ideas necessary for innovation from the standpoint of innovation itself. Under the assumption that resources and ideas move through networks inside and outside the organization, virtual experiments using computer simulations were conducted to see what kind of innovation would be generated in such a network form. The results of this research were published this year in an article in the Mita Business Review and a book titled “Nihon Shiki Keiei no Gyakusaku” (The Revenge of Japanese Style Management). To summarize the contents of these publications, I have found that “innovation becomes inactive when resources and ideas remain in different places,” “the management of storage is essentially isomorphic to the management of inventory,” and that therefore “the knowledge of production management theory, which specializes in the management of inventory, can provide suggestions for the management of innovation.”</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
岩尾俊兵	ありきたりな個人の卓越した組織：資源とアイデアの滞留に着目したイノベーション“それ自体”のマネジメント試論	三田商学研究	2021年8月			
岩尾俊兵	日本“式”経営の逆襲	日本経済新聞出版	2021年6月			
岩尾俊兵	イノベーションと変化「それ自体」のマネジメントの可能性	日本経営学会	2021年12月			
塩谷剛・岩尾俊兵	マクロ現象としての「両利きの経営」とマルチレベル分析の可能性	組織学会	2021年10月			
岩尾俊兵	全社戦略としてのカイゼンの可能性：日本式イノベーションは世界に通用するか？	国際戦略経営研究学会	2021年9月			
岩尾俊兵	イノベーション“そのもの”のマネジメント理論を求めて：『日本“式”経営の逆襲』への橋渡し	組織学会	2021年6月			